

第10回 よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会 会議録	
日 時	平成29年11月8日(水) 10時00分～12時00分
開催場所	関内中央ビル 5階特別会議室
出席者	【委員 4名】 荒木田委員長、岡村委員、桜木委員、田中委員
欠席者	荒尾委員
開催形態	公開(傍聴者なし)
議 題	1 事業検証について 2 平成29年度事業進捗状況について 3 その他
議事要旨	
事務局	事務局よりあいさつ(健康福祉局 藤原健康安全部担当部長) 定足数の確認 常任委員5名のうち、4名が出席のため定足数を満たし委員会が成立していることを確認
議題1 事業検証について	
事務局	【報告】(参考資料、資料2～5) 概要説明後、資料2について説明。
岡村委員	参加登録者の中には、歩数計をリーダーにのせず、もらったままになっている人が一定数いるということになるが、リーダーを利用した利用登録者の推移や目標値などは別途定めているのですか。
事務局	目標値は参加登録者数で一本化しています。リーダーを利用していない方でも、7～8割の方が歩数計を使っているため、この事業でなんらかの健康づくりに取り組んでいただいています。
岡村委員	本来の目的は、参加登録者数を増やすことではなく、市民の方の健康づくりになることなので、利用登録者数を見た方がよいと思います。
桜木委員	思ったよりも若い参加者が歩いていることに驚いています。
田中委員	個人に注目して、参加した時点と、参加してからある程度経過した時点とで、どのくらい歩数が増えたかを確認することはできますか。
事務局	今回の資料ではご用意がありません。歩数の変化を確認することはできますが、作業面などで難しい部分があります。
荒木田委員長	特徴をパターン化しないと難しいと思いますが、徐々に歩数が増えている方は、良い分析結果が得られると思います。
桜木委員	年齢に合った歩き方は大事です。医師に歩き過ぎを注意された方が周りにいます。
荒木田委員長	評価の中に、適切に歩いている方への評価があるとよいと思います。
岡村委員	歩数の変化で「1,000歩以上増えている」という評価は、もともと歩いている方の歩数が増えたのか、歩いていない人の歩数が増えたのかは大事なところだと思います。後の方が全体の健康度が上がりますが、そのような検討はしていますか。
事務局	参加後の歩数データであれば、実測での歩数の変化をみることは可能です。
荒木田委員長	P3の健康横浜21との比較をみると、40～64歳の方が高齢者よりも歩いていない

事務局	<p>傾向があるということですか。</p> <p>健康横浜21では、40～64歳男性は9,000歩以上歩く方が50%以上と目標としていますが、本事業の参加者では、目標の歩数に達している方は35.8%と少ない状態です。しかし、リーダーに歩数計を毎月のせている方たちをみると、目標値を達成しています。また、女性の歩数も少ない傾向にあります。</p>
荒木田委員長	<p>歩数計とリーダーを使っている方はいるが、全体的にもう少し歩いてもらう対策が必要です。</p>
田中委員 事務局	<p>6,000人の対象者を、どのように決めましたか。</p> <p>参加者のデータ送信の割合によって発送数を割り振りました。資料3のアンケート調査報告書の1ページ目に、具体的な対象者の抽出方法を記載しています。参加者全体の割合に合わせて、データ送信者、送信していない方、8割以上送信している方あての発送数を決めて発送していますが、回答を出される方は、リーダーを利用している方が多いです。</p>
荒木田委員長 岡村委員	<p>データ送信する方の回答が反映される傾向があるということですね。</p> <p>資料2のP9のメタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームの変化ですが、メタボは男女で診断基準が異なるし、ロコモの原因も男女差があると思います。男女別で集計していますか。</p>
事務局 岡村委員	<p>この表では男女まとめて出していますが、男女別で集計はしています。</p> <p>参加前後で男女ともよくなっています、という結果があることが大切だと思います。メタボは特定健診などでの比率に比べて、高いのか低いのかで参加者の特性が見えると思います。大体の目安として比較しておく、健康意識の高い人が参加しているのか、メタボを解消したい人が参加しているのか特性がわかると思います。</p>
荒木田委員長	<p>メタボの予備群を含めて、改善したという20%の方がメタボの健診データと比較してどうか、ということですね。改善した人はたくさん歩いているのか、といった歩数分析ができればと思います。</p>
岡村委員	<p>参考にしてくれる政令指定都市が増えるとよいので、広く公表してほしいです。ホームページは、興味のある人しか見ないため広く公表するには実はあまり適していません。関係者が参加する会議等で公表されると、一種の評価のマイルストーンになるとともに、参考にしてくれる自治体が増えてよいと思います。</p>
荒木田委員長	<p>今年度は歩数とアンケートの回答を結び付けて分析していますが、この手法はあまり例がないと思います。この結果を公表し、評価の枠組みを提案すると他の自治体の参考になると思います。</p>
岡村委員	<p>こういった仕組みやシステム、評価方法で検証したらうまくいったということを広めるため、公表する場所にあわせて、説明の重点を変えるなどするとよいと思います。</p>
桜木委員 田中委員	<p>健康講座などでもこの事業を地道に広めたいと思います。</p> <p>今後について、健康横浜21とウォーキングポイントの関係性について、健康横浜21の委員会とも連携し、運動習慣のない方に参加していただかなければならないと思っています。高齢者やひとり暮らしの方向けに、バランスのよい食事や、きちんと噛み砕いて飲み込むことの普及にも力をいれないといけないと思います。最近</p>

桜木委員 荒木田委員長	いわゆる栄養失調の方が増えていると感じるので、ウォーキングポイント事業ともさらに連携を図ればよいと思います。 自分で食べる、自分で歩くをテーマにいきたいと思う。
荒木田委員長 事務局	リーダーですが、多く使われている設置場所や努力をされている設置場所を、表彰することはできますか。他の設置場所にも知ってもらって、リーダー設置場所に工夫してもらえたらいいのではないかと思います。
荒木田委員長	資料 2 の P 9 について、ロコモは全ての年代に質問しているのでしょうか。
事務局	全ての年代にお聞きしています。
荒木田委員長	問 32 のメタボは 40 歳以上とあるのですが、問 33 のロコモには記載がなかったもので、全ての年代に質問しているのか気になりました。
岡村委員	資料 1 の 3 のタイトル「集計データ抜粋」ですが「集計結果」の方がわかりやすくよいか思いました。ロコモティブシンドロームについて、そもそもロコモという言葉をご存知でしょうか。
桜木委員	だいぶ定着してきたとは感じます。
岡村委員	国の調査で、メタボと認知度の差があったと思ったので、少し解説があった方がいいと思います。
事務局	解説を入れるようにいたします。
荒木田委員長	資料 2 の P 9 問 32 で、参加前にメタボ診断のあった方について、参加後に 11% の人がよくなったという結果のみにしてよいと思います。強調したいのは改善したところなので、参加前「あった」「予備軍」の 2 つグラフだけでもよいと思いました。
議題 2 平成 29 年度事業進捗状況について	
事務局	【報告】 資料 6 について説明。
荒木田委員長 事務局	30 年度以降もリーダーは残るのですね。 歩数計は継続して利用しますので、リーダーは引き続き利用できます。歩数計は、年間 5,000 個程度の新規受付を予定しています。
議題 3 その他	
岡村委員	事業所で参加する方が増えていますので、今後アンケート等をするときに、仕事上の必要性があって歩いている人なのか、健康を意識して歩いているのが大事な視点になってくると思うので、その評価を検討していただければと思います。
荒木田委員長	全体の約 10% を占めている事業所参加の方の評価の枠組みということですね。次年度以降も設置を続けますし、工夫をしている設置場所の取組例のホームページでの紹介も検討をお願いします。
(終了)	